

平成 21 年度二見地区地域審議会概要

- 1 開催日時 平成 21 年 6 月 10 日（水）19：00 から 21：00
- 2 開催場所 二見生涯学習センター
- 3 会議内容 ごみの収集方法等の統一に関する基本方針（素案）について
- 4 出席委員 松本徳男委員、山本貞夫委員、濱千代利弘委員、松本誠委員、
奥野雅則委員、中村恒委員、橋本清美委員、北井伸治委員、北
村峰記委員、酒徳孝委員、宮後朝訓委員、福井輝夫委員、八木
直己委員、濱條幸久委員
- 5 欠席委員 松本昌純委員
- 6 出席職員 生活環境部部長、同参事、環境課副参事、二見総合支所長、地
域振興課課長補佐
- 7 議事概要
 - 1) 会長あいさつ
 - ・ 5 月 11 日に正副会長会議があり、ごみ問題について、8 月末までに二見
町の考え方の集約、出来なければ意見だけでもと諮問を受けました。
 - 2) 支所長あいさつ
 - ・ 資料に基づいて、環境生活部から説明を受け、その後質問等、最後に二
見としての考え方をまとめた。
 - 3) 生活環境部参事説明
 - ・ 合併した現在でも、ごみの出し方、分け方、集め方が地域ごとに違いが
あり、合併時の重要な調整項目と位置づけています。
 - ・ 統一の方法を、本庁、総合支所の担当者で素案をまとめた。
 - ・ 基本的な考え方は、ごみの減量、資源化の取り組みは後退することなく、
住民の利便性、負担の公平性の統一を図りたい。そのことにより、収集の
効率性を高め、収集等にかかる経費の削減を図りたい。
 - ・ 統一内容は、①燃えるごみの集積化、②資源ステーションの集約、③ご
み分別品目の整理、④品目別排出・回収頻度、⑤収集体制、⑥廃棄物投棄
場
 - ・ ごみを出す方法は、大きく燃えるごみと資源ごみに分かれます。
 - ・ 燃えるごみの現状、二見町 47 世帯で 1 箇所程度、小俣町 41 世帯で 1 箇
所程度で集積場を整備、しかし旧伊勢市及び御菌町は個別収集が多く残っ
ています。
 - ・ サービスの統一及び公平性が図られていないので、旧伊勢市及び御菌町
に対し 50 世帯で 1 箇所程度を目標に集積化を図っていきたい。
 - ・ 資源ごみステーションの現状は、二見町は 94 世帯で 1 箇所、小俣町は

123世帯で1箇所、旧伊勢市は43世帯で1箇所であり、100世帯で1箇所の集約を図っていきたい。御菌町は240世帯で1箇所であり、場所等確保できれば若干増やす方向で調整したい。

- ・最終的に市内全域に対し、燃えるごみは50世帯で1箇所程度、全体で1000箇所、資源ごみステーションは、100世帯で1箇所、全体で500箇所を整理していきたい。

- ・二見町には、ごみ集積化、資源ごみステーションとも場所については、今と違うことをお願いすることはない。

- ・ごみの分別品目について、15品目存在しているが、地域によって「金属・その他」「アルミ缶」「スチール缶」の部分で異なります。

- ・旧伊勢市及び御菌町は、アルミ缶、スチール缶を含めて、「金属・その他」で回収し、広域環境組合の粗大ごみ施設により、機械で細かく破碎し、鉄とアルミを取り出し売却しています。二見町は、「金属・その他」以外に「アルミ缶」を別回収しています。小俣町は、「金属・その他」以外に「アルミ缶」「スチール缶」を資源として別回収しています。

- ・「アルミ缶」「スチール缶」を別回収しても、有価物として売却できず無償で引き取り業者に渡しています。

- ・広域環境組合で破碎処理したものについては、量も多いという関係もあり、アルミでトン当たり58,000円で売却しています。

- ・資源化を後退させるものでないので、22年度の統一後からは、「金属・その他」「アルミ缶」「スチール缶」を「缶・金属類」として、資源ごみステーションに出してください。

- ・「金属・その他」は基本的に燃えるごみと同じ所に出しているのが多いが、それを資源ごみステーションに出していただくところが変わってくる。

- ・品目別排出頻度について、一番大きく違ってくるのが、資源ビン、紙・布類、ペットボトルについて、二見町及び小俣町は常時資源ごみステーションに持っていったのが、品目別に回収日を設定する方向で調整を図りたい。

- ・回収回数の設定の考え方は、たとえば「缶・金属類」について、御菌町は月2回、二見町、小俣町は週1回、そして旧伊勢市でも月2回で量は概ね容器（一斗缶）に半分程度であるため、季節的な変動はあると考えるが、量の少ないものは回数も少なくと考え、月1回とした。逆に、プラスチック製容器包装は、家で保管するにもかさばるものであるため週1回とし、それ以外は基本的に月1回での設定でお願いしたい。

- ・常時出せた物が、回収日が決められることにより、仕事の都合や天気により出せないことが考えられる。また季節的に量の変動も考えられるので、

二見町の美化センターを、地域の拠点ステーションとして位置づけて対処
いただきたい。

- ・基本的に資源ごみステーションは、市が決められた前日に回収容器を設
置し回収する。次の日が別の品目の回収日でなければ、資源ごみステー
ションの管理は市で行います。

- ・粗大ごみも違いがあり、二見町は美化センターへ搬入されれば無料で処
分、小俣町及び御菌町は清掃工場へ搬入か市の有料収集しか行っていま
せんでしたが、年1回町内単位で無料にて回収します。又は有料で回収の二
つの仕組みで回収を行います。

- ・廃棄物投棄場については、二見町及び御菌町は限界となっているので廃止
の方向で整理し、がれき物で資源化できるものは旧伊勢市の処分場を使い、
小俣町の管理型処分場へは、埋立処理しなければいけない物を埋めていく
と考えているが、地元地域住民の了解もいただかなければいけない。

- ・廃棄物投棄場の整理は、平成23年度を目標に考えています。

- ・ごみの分別、品目の統一及び資源ごみを含めた品物別の回収日の設定に
ついては、22年度からお願いしたい。

- ・燃えるごみの集積場について、これを実施しないと収集コストを下げる
ことにつながらない。

- ・伊勢市ではごみを収集するのに、個別収集であるため1台3人体制で行
っています。集積化されれば1台2人で十分であり又将来的には、直営だ
けでなく民間委託の方向で整理することも含め、経費削減につなげていき
たいと考えています。

- ・収集の組織については、各総合支所で収集部門をもっていましたが、4月か
ら一本化しました。

- ・今年1年かけて、収集コースが地域ごとに設定されているのを、効率を
考えた地域をまたぐコースや、個別収集から集積化された場合、1台2人体
制の時に一番適切な仕事量となるかのモデルコースを設定し、現場として
も検証しています。

- ・机上の計算となりますが、現在9億5千万円の収集経費が、統一するこ
とにより1億7千百万円減額できると考えています。

- ・二見町では、常時出せたものが日が限られ、家に保管いただき、不便を
感じる部分であると思いますが、他の地域では行っていることであるので
ご理解いただきたい。

- ・ごみの分別品目の統一と回収日については、住民の皆さんにお知らせす
るため、ごみカレンダーにはっきり載せていきます。

- ・スケジュールについては、ごみカレンダーの作成が例年11月から始めて

いるので、9月末ぐらいには基本的な方針という形で提示を考えています。

4) 質疑応答

委員：スタートした段階で住民への説明会が無ければ、間違えて置いてしまい山積みとなってしまう。

市：最終方針が示されたら、説明させていただきます。

会長：ごみ問題の意識は向上しているが、6年か7年前に指定袋に変更した時には苦勞しています。机上プランではなく徹底してほしい。

委員：資源ごみ、今は常時出しているが、収集はどれくらいのペースで行われていますか。

市：ほとんど毎日回っていると思います。

委員：プラスチック製容器包装は週1回、ペットボトルや紙類は月1回となっていますが、資源庫に納まるのかと思います。

市：二見町の資源ごみステーションについて勉強しましたが、月1回では納まらないと思います。ついては、基本的に資源物を品物ごとに分けて出していただく。紙関係も、ダンボール、新聞、雑誌、特にダンボールはかさばりますので、別回収を考えています。それと、今は資源庫の中で管理を習慣化されていますが、濡れても支障の無い資源物、資源庫の前にスペースがあり、外での回収に支障がなければそういう場所も利用していきたい。

会長：5月11日にも話しが出たが、細分化していく。新聞なら新聞、雑誌なら雑誌、雨の日は大変ですが、その点何かあれば逐次改良してもらえますか。

市：そうです。

委員：旧伊勢市は赤いネットで納まっていますが、たいした量が置けないのではないですか。

市：基本的に納まっているのは、1箇所の世帯数が少ないので納まっていますが、集約していくとなると広いスペースが必要となり、そういった場所が見つかるかが課題として残っています。

資源ごみステーションへは回収容器を設置するので、そこへあけて帰ってもらう形で対応したい。

旧伊勢市は資源庫を使っているところが少なく、回収日が雨の時は、ビニールなどに包んで新聞、雑誌が出されています。たいていはその日に出さず、次まで溜めておくか、拠点ステーションに置いてくるという形で対応していただいていると思います。こういったカバーする施設が無いと難しい。休日に旧伊勢市の拠点ステーションを使っているのは全然問題ないのですが、美化センターを拠点ステーション

として位置づけ、休日に持っていただき回収する体制をとっていきます。

会長：旧伊勢市には、拠点ステーションがどれくらいの規模でいくつあるのですか。

市：16箇所あります。本来は駅裏のような施設が1、2箇所あるのが本来の姿であると思いますが、好評であったため増やしてしまった。そのため拠点ステーションは、どこから持ってきても良いのですが、使われる地域が限定しているという現実もあります。これを整理していく中で、拠点として位置づけて残すのか、地域の資源ごみステーションに切り替えて、回収日に合わせて出していただく仕組みで整理していくのかという問題もあります。

会長：拠点ステーションは、どうしても出せなかった人のみですよ。

市：本来はそういった考え方であったと思います。

市：二見町、小俣町、御菌町には、拠点ステーションが無いので、統一後は一つずつは拠点ステーションが必要であると考えます。

委員：旧伊勢市と、二見、小俣の方式はどれくらいの効率性、経費が違うのですか。

市：細かいデータを持っていない、合併する前のデータですが、燃えるごみの収集コストで考えると、二見町と旧伊勢市を比べたら倍近くの開きがあります。171,000千円の内、資源回収部分では、二見町、小俣町で常時回収から日を決めて回収することにより2、3千万円の減額、残りは旧伊勢市の燃えるごみの集積化によってコストは下がってきます。

委員：前回の会議の説明で、資源回収の経費は何もかかっていないと言われたと思います。そういう中で二見方式が悪いと思っていない。伊勢のやり方は、まとめて集めて、清掃工場で分別するやり方ですよ。

市：清掃工場で分別するのではなく、住民で分別して出していただくのが大原則です。

会長：プラスチック容器包装が、一番体積多いですよ。

市：多いですから、週1回です。

市：二見町、小俣町の資源ごみの回収を、随時から日を決めて回収することにより回収コストが2千万円程度しか変わらないと言いましたが、逆に二見町、小俣町方式が良いので旧伊勢市も随時で回収すると、可燃ごみを集積化したコストはなくなってしまうので、そのあたりもご理解願いたい。

委員：ペットボトルの回収が月1回では、嵩がすごいと思います。

支所長：問題になってくるのは、資源物を資源庫の外でもいいという場所

ばかりではない。地域によって狭い所もあり、違う施設をいただけるのか、基本的に外もありと説明いただいているが、そのへんを考えてください。

会長：他所もやっているのやっていくのではなく、観光都市として伊勢市はこうやっていきますという意気込みでやってほしい。

市：今までは集積化なら集積化のことだけ、資源なら資源だけお願いしていたが、今回は統一を進めています。

会長：分別の方法は、色んな観点から、将来変わらずにやれるという核心を持って行ってほしい。

市：品目の関係で将来変わってくる可能性があるのは、燃えるごみの中の生ごみを検討していますが、他の部分は基本的に無いと思います。

会長：この前本を読んでいたら、分別が100%進むと燃やす時に重油が必要となり、せつかく分別したプラスチック等を混ぜているというのが出ていましたが、そのあたりも大丈夫ですか。

市：燃えるごみから、プラスチック、ペットボトル、紙が抜けていきカロリーが下がってきましたが、絶えず重油を使っているのではなく、炉の中の温度を上げる時のみ使っています。しかしだんだんカロリーが下がってくると、特に夏場は水分があり燃やせない現状が起こってきますので、その時は使います。一番焼くのに難しい生ごみを、焼かないですむ方法を考えないと根本的な解決とならないことから検討しています。

委員：具体的にどれぐらい、ごみが減量になるのか。又資源化はどうか。

委員：資源ごみで、旧伊勢市と旧二見町、旧小俣町との資源化率に差はありますか。伊勢市方式に変えた時、二見町の資源化率が悪くなる可能性もあります。

市：資源化率には、ほとんど差は無い。

先ほどの分別を徹底したらとの話ですが、燃えるごみの中身を調べたら、資源が混ざっているのがありました。その数値はありますが、手元にはないです。

会長：住民が分別せずに出した場合、ごみは減らないという考え方でよいですか。

市：資源ごみについて、たとえばペットボトルに紙とか生ごみが混ざっていると再資源化に回せない。現状はわずかに入っているだけなので売却できていますが、その度合いが悪くなると資源として出せなくなる。分別への徹底を絶えずお願いしていかなければいけない。

委員：説明の冒頭、住民の利便性の中で後退させることなくと説明があり

ましたが、考え方によっては後退させるというのは多少あるので、住民の皆さんには痛みは感じると思うが行ってほしいというような説明でないと、後退させることなくと大上段に振りかぶられたのではどうか。

市：言葉足らずかも知れないが、現状の資源化の取り組みは後退させることなくと説明しました。利便性を後退させることなくとは言っていません。利便性は、いつでも出せるということから決められた日ということ、ある意味後退しています。個別収集にしても、家の前から集積所に持っていくというのは、サービスの低下と言われればそういう考え方も出来ると思いますが、利便性も同じように受けていただく、負担についても同じように負担いただく。そういった意味で統一を考えています。

委員：収集回数が、月1回、週1回であります。今論議していてもやってみないとどういう状況になるか分かりません。これは状況を見て変えるのですか。

市：予想よりもはるかに違ってくれば、それはそれで対応していきます。

委員：二見町として、この回数を徹底するのに日数はかかるとは思います、やむを得ないと思います。

会長：定着するまでの1年間ごみに明け暮れた。そこへ力を入れてほしい。

委員：この1月から3月にしっかりPRして、希望として組長会議とか色々な会議に来ていただきたい。

委員：一度に切り替えていく方針ですか。

市：今の素案では月1回と言っていますが、この前二見町の自治会の集まりの場でも、22年にはもう1年もない中で、月1回にするのかと意見をいただきましたが、それに対してどうこうするとは言えない状況です。他の自治会や旧伊勢市の方からも色々な意見をいただいているので、色々な意見をいただいた上で基本方針を決め、説明していきたいと思えます。

委員：問題は、間違えて出してきた、収集できないごみが出てくるのではないかと危惧します。

会長：期日を間違えて出されたごみは、誰が出したか分かりませんので、周知徹底していただきたい。

支所長：前日に区長会の説明では、施設の中に全て入れるという前提で聞いたが、今日の説明では外もありという話であります。外へ置くということは、ペットボトルの時にダンボールを外に置かれる可能性があり、プラスチックの物も置かれる可能性が強くなるので、施設の中

へ納める形をとっていくことが一番大事です。

市：前に置かれたものはどうするのですか。

支所長：そうならないよう指導しなければいけない。

市：それは基本的に同じであると思います。小俣町の資源ステーションは、敷地があり倉庫がありますが、外でも集めています。そこはいつでも出せる状態なので、他所から来て置いてはいけないものを勝手に置いていき、問題が起こっています。今後は品物ごとに回収日を決め、市から前日容器を設置し、当日までの間に出していただく。次の日が別の回収日でない時は、市がカギを施錠し管理するので、中には入らないと思います。しかし、外へ置かれた場合にはそれは不法投棄になるので、中身を確認し持ち主が分かれば話をし、確認できない物は市が回収せざるを得ないと思います。

支所長：二見の場合は、全部倉庫内に入れるのが前提で守られています。

それを外へ置くことによって違った流れになってしまわないか。

委員：4月にスタートし、4月に月1回のペットボトルは何とかなったとしても、8月にはとんでもないけどもという可能性は高いと思います。外に置いてもいいとなると、先ほど会長も国際観光都市伊勢としてはと言われたが、私も同感で、個別収集だと、通り沿いの道にごみが出されていて、観光客が見たらみっともないと思っています。資源庫の前であっても事情は同じだと思っています。そうなった時には、資源庫の拡大とか月1回の回収を、夏場だけでも月2回にするとかも含めて考えていかないと、外に置いてもいいという話は通らないし、通してほしくないです。

市：場所もあると思います。伊勢市中の資源庫全部は難しい。二見町で人が迂回する地域では、それにふさわしい可燃ごみの施設や資源庫にしなくてはならないが、一つ裏の住民の生活場所であれば、同じものがあるかという点と違うと思います。場所の性格も見ながら考え、全てを同じ基準は難しい。それぞれの特性を活かしていきたい。

市：二見地域の皆さんが、資源物であれなんであれ、外から見えずに保管庫に納めるというのは一つの考えであり、否定するものではないし、旧伊勢市でも観光客を迎える所では、景観に気をつけなければいけない所はありますが、全部統一となると、財政的にとても耐えられない。

委員：住民の方はそれに納めているわけですから、新たにやるのではなく、今あるものを活用して続けていきたいと思いますという話です。

委員：ごみカレンダーが小さくてお年寄りは見にくいと思います。紙、布は何曜日、この日はごみと箇条書きで、大きくまとめて見やすく作っ

て、各家庭に配布を検討いただきたい。

市：今も各家庭に配布しています。

委員：ごみカレンダーはもらっていますが細かい、分別をするのに今のカレンダーは必要ですが、1枚のポスターのような紙に、ペットボトルは火曜日、水曜日は紙類と書いて、これを見てお年寄りが分かるようにしてほしい。

委員：曜日でなくても、月の何日とはならないのか。

委員：色んな委員をして、連絡協議会なども参加していますが、今の伊勢市の考え方は、良いことも悪いことも、とにかくルールを決めてやる体制で進んでいる気がします。今回のごみでも話がありましたが、今でもあふれているのに回数を減らしたらどうなってしまうか。今所長が言われたように外に置くのか、色んな問題が出てきます。市役所の考えは、統一してルールを決めてやっていく。地域性を活かしながら地域にあったやり方があります。旧伊勢市では、あんなところにぶら下げて、観光都市であるのに個別で収集しています。今二見が行ってることがベストではないが、どこの区からも苦情は来ていないわけで、二見はそれで行ってもいいのではないか。何も今さら変える必要が無いと思います。合併して新しい伊勢市になったのですから、統一していこうというのは分かりますが、良いことも悪いことも統一していく方針は納得いかない。

市：4つの町が一つになった中でも、地域の特性を活かしながら、それぞれの町の地域の発展を活かすことが、結局伊勢市の発展になるという話ですが、そのとおりだと思います。しかし今回の場合は、ごみの統一部分ですから、これは地域特性を活かすということと違うと思います。収集回数是一緒にし、それを変えない中で地域の工夫があって、これでどうですかと提案をいただくのであれば検討したい。それが素案から大きく後退してしまうものは、要望いただいても難しい。大きな方針の下で、地域の特性を活かしていただくことについては、ご議論、ご提案いただいたらよいと思います。

委員：埋立ごみの中にスレートがありました。スレートは受け付けていないのではないですか。

市：一般家庭の方が、自分で壊して持ってきましたら受けています。

委員：アスベストが含まれていても、いなくてもですか。

市：ですから、管理型の処分場に埋めなくてはいけない。

委員：小俣の方へということですか。

市：そうです。今ほかで新しく造ろうとしてもなかなか造れない。小俣の

管理場はほんとに大事に長く使っていかなければいけないと思っています。

委員：住民への周知のプランが出されていますが、色んな意見の中で変えられる要素はありますか。

市：広報 ITV による住民周知がありますが、これだけで良いとは思っていません。皆さんが言われるように住民へ説明を行います。

委員：最終的には住民一人ひとりが分別して出すというのが、一番の中心にならなければいけない。プランだけでなく、周知徹底で理解が得られないと前に進まない中身です。

市：顔を合わせ、話をするのが大事であると思います。

委員：説明会では、分別で外へ出してくださいとは言わないでいただきたい。これを言われるとマナーが守られない。火災とかの防災の問題もあります。

委員：回収頻度月 1 回が多いが、私らの農家ですと小屋があつたり敷地が広がつたりと、月 1 回にあわせ置いておくことは可能であると思いますが、団地の人とかアパートとかは置くところがほとんど無いのではないのでしょうか。月 1 回ですと、今まで協力していた方が、たまってきたらごみとして出してしまうのではないかと思います。月 1 回では問題ではないのでしょうか。

市：今回の回数を決めたのは、実際に収集に当たっている職員から実情を把握し決めています。ただ個人個人で、色んな事情で待てない人もあるかと思っています。それについては、土日を中心に拠点ステーションを設けさせていただき、そこへ持ち込んでもらいたいと思います。